

# 自我偈の構成・訓詁

（要約）

（訓詁）

（口語訳）

（久遠）  
久遠の昔に悟り、仏となる。

（実成）  
衆生救済のために、方便として入滅するが、実は、常に法を説き導いている。

（涅槃の理由）  
入滅する理由は、衆生が渴仰し仏を求めずにはいられなくするためである。

（仏の常住）  
仏は常住して法を説いている。

（衆生の誤解）  
しかし、衆生は仏は入滅するものと誤解し、娑婆世界で苦しみもがいている。

（仏の姿勢）  
だから、仏は姿を消し、渴仰の心を起こさせ、恋慕の心が起きたら、どこにでも出現して法を説く。

（安穩な国土）  
煩惱に覆われた衆生の目には、この世界は不定に見えても、仏の国土は、常に安

①我仏を得てより来 経たる所の諸の劫数 無量百千万 億載 阿僧祇なり

②常に法を説いて 無数億の衆生を教化して仏道に入らしむ 爾しより来無量劫なり

③衆生を度せんが為の故に 方便して涅槃を現す 而も実には滅度せず 常に此に住して法を説く

④我常に此に住すれども 諸の神通力を以て 顛倒の衆生をして 近しと雖も而も見ざらしむ

⑤衆我が滅度を見て 広く舍利を供養し 咸く皆恋慕を懐いて 渴仰の心を生ず

⑥衆生既に信伏し 質直にして 意柔軟に 一心に仏を見たてまつらんと欲して 自ら身命を惜まず

⑦時に我及び衆僧 俱に靈鷲山に出ず

⑧我時に衆生に語る 常に此にあつて滅せず 方便力を以ての故に 滅不滅ありと現す 余国に衆生の 恭敬し信樂する者あれば 我復彼の中に於て 為に無上の法を説く

⑨汝等此れを聞かずして 但我滅度すと謂えり

①私（仏）が悟りの境地に達して（成仏して）からこのかた、経過した時間は、計り知ることが出来ないくらい長い。

②その間、私は絶え間なく法を説いて、数え切れないほど多くの衆生を教え導いて、仏道に入らせてきた。そのようにして教化しつつ、これまで無限の年月が経過してきている。

③私は衆生を救うという目的のために、巧みな手だてをもって、肉体が滅して涅槃に入ることを現してみせるのである。しかし、それは本当に死んだのではなく、実際にはいつもこの娑婆世界にあつて教えを説きつづけているのである。

④私はいつてもこの娑婆世界に住んでいるのだが、もろもろの神通力で、煩惱によって心が顛倒している衆生に対して、近くには居てもわざと姿が見えないようにしているのである。

⑤衆生は、私が入滅したのをまのあたりにして私の遺骨を供養し、（そこではじめて）誰もが私を懐かしく思い、恋慕い、どうしても仏の教えを求めずにはいられない気持ちになる。

⑥（そういう気持ちになった）衆生は私の教えを心から信じ、まっすぐな素直な心で、ひたすら仏の姿を拝みたいと願ひ、そのためには自らの命さえもいらぬという気持ちになる。

⑦衆生の心がそのようなようになった時に、私は多くの僧たちと共に靈鷲山（この娑婆世界）に姿を現すのである。

⑧そして、私は衆生にこのように話す、「私はいつでもこの世界にいて滅することはない。が、教化の手段として必要と思われる時には、入滅してみせたり不滅の姿を見せたりするのである。もし、この娑婆世界以外のところにも、仏の教えを敬い尊び信じて、聴聞したいと願う人がいれば、私はその人たちの中に姿を現して、最高の教えを説くであろう」と。

⑨それなのに、あなた達衆生は私のこの言葉を聞かずに、私すなわち仏というものは入滅するものと思ひ込んでいるのである。

⑩私が仏の眼をもって衆生を見てみると、多くの衆生は苦海に沈んで苦しみもがいている。そんな状態であるから、わざと姿を現さないで衆生に一途に仏を求める心を起こさせるのである。

⑪仏の神通力とはこのようなもので、阿僧祇劫という非常に長い年月の間いつも、靈鷲山だけではなく他のもろもろの場所においても（人が教えを求める場所には）仏は住しているのである。

⑫衆生の目から見ると、この世界が終わって大火に焼き尽くされたと見えたとしても、私の住む国土は安穩であつて、天上界人間界の者がいつも沢山集まって楽しく暮らしている。

⑬美しい花園、静かな林、沢山の堂閣はいろいろな宝石で飾られている。木々には美しい花が咲き、豊かな果実が沢山なり、衆生が嬉々として遊び楽しんでる。もろもろの天人界の人たち

### 三、国土の安穩と対機説法（詳述）

穩で平和な常寂光土である。

（衆生の苦惱）

煩惱にまみれ不完全な衆生は、苦惱に満ちている。

（万能の仏）

しかし、仏は、心の柔軟な人、鈍根の人それぞれに応じて自在に法を説いてくれる。

樂する所なり  
諸天天鼓を撃つて 常に衆の妓樂を作し

曼陀羅華を雨らして 仏及び大衆に散ず

⑭我が浄土は毀れざるに 而も衆は焼け尽きて

憂怖諸の苦惱 是の如き悉く充滿せりと見る

⑮是の諸の罪の衆生は 悪業の因縁を以て

阿僧祇劫を過ぐれども 三宝の名を聞かず

⑯諸の有ゆる功德を修し 柔和質直なる者は

則ち皆我が身 此にあつて法を説くと見る

⑰或時は此の衆の為に 仏寿無量なりと説く

久しくあつて乃し仏を見たてまつる者には 為に仏には値い難しと説く

⑱我が智力是の如し 慧光照すと無量に  
寿命無数劫 久しく業を修して得る所なり

は、天の鼓を打ち鳴らし、常にいろいろな音楽を奏で、仏の私や衆生の上にも曼荼羅華という美しい花を無数に散らし注いでいる。

⑭私の住している浄土はこのように美しくけっして壊れることはないのに、それにもかかわらず、多くの人々は、この国土は劫火によって焼き尽くされていて、憂いや怖れなどの多くの苦惱がすべて満ち満ちていると思っている。

⑮このように煩惱に迷っている多くの衆生は、良くない行いの原因によって過阿僧祇劫という永い時間を経ても、仏・法・僧という三宝という言葉すらも耳にすることがない。

⑯その中でも、（三宝に帰依し）あらゆる功德を修め心が柔和で素直な人は、直ぐに私がこの娑婆世界にあつて教えを説いていることを知ることが出来るのである。

⑰私は、ある時は、このように教えを求める人のために「仏の寿命は無限である（だからあなた方も同じになれますよ）」と説く。また、長い時間を掛けて今ようやく仏にお会いすることが出来たような（未熟な）人に対しては、それだからこそ「仏にお会いすることは極めて難しく尊いことなのだ（だから、シツカリした気持ちで修行しなさい）」と説くのである。

⑱私の智慧の働きはこのように自在であり、智慧の光はすべての衆生を照らしてその限界がない。また、私の寿命は永遠であり、それは永い修行を積んだ結果得られたものなのである。

（信力が大切）  
仏の言葉を疑わずに信ずることが大切。

（方便の使用）

時には、巧みな方便を以て衆生を救う。

衆生の力量（機根）に応じて教えを説き導いている。

⑲汝等智あらん者 此に於て疑を生ずることなかれ  
当に断じて永く尽きしむべし  
仏語は実にして虚しからず

⑳医の善き方便をもって 狂子を治せんが為の故に  
実には在れども而も死すというに  
能く虚妄を説くものなきが如く  
我も亦為れ世の父 諸の苦患を救う者なり

㉑凡夫の顛倒せるを為て 実には在れども而も滅すと言ふ  
常に我を見るを以ての故に 而も恚の心を生じ  
放逸にして五欲に著し 悪道の中に堕ちなん

㉒我常に衆生の 道を行じ道を行ぜざるを知つて  
度すべき所に随つて 為に種々の法を説く

㉓毎に自ら是の念を作す 何を以てか衆生をして  
無上道に入り 速かに仏身を成就することを得せしめんと

⑲あなた方智慧のある人たちは、ここで（仏の智慧・寿命の無量であることを）疑いを抱いてはならない。疑惑があれば、それは本當に断ち尽くしなさい。仏の説く言葉は、常に真実であつてけっして偽りではないのである。

⑳「医者（である父親）が、正しい方便（手段）として、（毒に当てられて）本心を失くしている子供たちを治すために、実際は生きているのに（父である自分は）死んでしまったと伝えたこと」（『良医良薬の譬』）を、それは嘘を言っていると咎める者はいないであろう。それと同じように、私も亦この世の父であつて、（巧みな方便をもって）衆生をもちもろの悩み・苦しみから救う者なのである。

㉑しかし、凡夫は心が顛倒していて、そのような仏様のお計らいに気付かないので、（それに気付かせるために）実際はいつもこの世にあつて法を説いているのだけれども、私の肉身は滅してしまふと言ふのである。衆生はいつでも私（仏）に会えると思つと、そのために（仏の教えもそれほど有り難くないという）心が驕つてわがままな心が生じ、気ままに振舞つて五官の欲望に執着し、地獄・餓鬼・畜生の三悪道のなかに落ちてしまふのである。

㉒私はいつも、衆生の中のある者は仏道の修行に専念し、ある者は怠つているということを見ているから、その人の悟りに至れる力量に応じて、いろいろな教えを説くのである。

㉓私はいつも次のような想いを持ち続けている。どのようしたら、衆生をこの上ない仏の道に導き入れることが出来るであろうか、また、速やかに仏の悟りに到達させることが出来るであろうかと。（口語訳・酒井義博）

### 四、仏の救済力（まとめ）

### 五、仏の誓願（結び）

（仏の真意）

仏は、いつにおいても、どこにあつても、絶えず衆生の成仏を考えている。